

## 2012年度 立教SFR国際会議助成成果報告書 (A, B, C)

### 1. 会議概要

会 議 名	和文	啓蒙の世紀のフランス政治経済学：革命前における社会改革の諸展望				
	欧文	French Political Economy in the Age of Enlightenment				
主 催	立教大学経済学部・法学部					
共 催	立教大学経済研究所					
後 援	日仏経済学会					
開催責任者	所属	経済学部				
	氏名	黒木龍三		印		
運営事務局	事務担当者	法学部				
	氏名	安藤裕介				
開催期間	2012年 9月 8日 から 2012年 9月 9日まで					
開催場所	立教大学太刀川記念館3階多目的ホール					
参加者数※1	学内	2名				
	学外 国内から招聘	4名				
	海外から招聘	4名	2カ国	合計 10名 3カ国		
公開講演会等 参加者数※2	①	2012年 9月 8日	19名 (国際会議のみ)			
	②	2012年 9月 9日	85名 (国際会議および公開講演会)			
開催日程		午前	午後	夜		
	第1日 月 日	9:50-10:00	開会の挨拶	13:30-14:30	18:00-20:00 懇親会	
		10:00-11:00	Murphy 報告	14:30-15:30		Orain 報告
		11:00-12:00	川出報告	15:30-16:00		安藤報告
		12:00-13:30	昼食	16:00-17:00		休憩
	第2日 月 日	10:00-11:00	Salvat 報告	13:30-14:30	Steiner 報告	
11:00-12:00		黒木報告	14:30-15:00	喜多見報告		
12:00-13:30		昼食	15:00-16:00	休憩		
			16:00-16:10	公開講演会		
第3日 月 日			閉会の挨拶			
開催経費総額	予算額	2,161,320 円	執行額	1,583,504 円		

※ 1 参加者とは、会議において講演、パネラー、コメンテーター等の活動を伴う者をいう。

※ 2 一般に公開された講演会等に聴講のために参加した者。講演者、パネラー等は除く。所要経費が60万円以上の会議で参加者がのべ100人を超える場合は、参加者名簿を添付すること。

## 2. 開催趣旨概要

本国際会議は、啓蒙主義時代のフランスにおける「政治経済学（エコノミー・ポリティーク）」について、主に大革命前に試みられた社会改革の展望という方向から光をあて、多分野横断的に論究することを目指した。19世紀以降の経済学が「自律した科学」とみなされ、その形式化が直線的に進んでいくのに対して、18世紀の「政治経済学」は自然法学・道徳哲学・政治哲学・経済科学の萌芽の間での相互連関を保ちながら、豊穡な学問的広がりの中にあっただと言える。本会議は、そうした啓蒙主義時代の「政治経済学」の全体像に少しでも肉薄するため、様々なアプローチをもつ18世紀フランス研究者を国内外から結集した。とりわけ、同じ分野における国内および国外の研究者が専門的交流を結ぶだけでなく、経済学や政治学といった単一分野を越える学際的交流にも力点を置いた。

## 3. 国際会議の成果概要・今後の展望等

会議の初日である9月8日（土）は、午前と午後を合わせて5名の報告者が登壇した。午前の部では、Antoin Murphy氏が金融市場をめぐるジョン・ローの革新性とカンティロンの深い洞察について報告し、次いで川出良枝氏がフェヌロン以降のコスモポリタニズムの展開について包括的検討をおこなった。また午後の部では、Arnaud Orain氏が王政改革に直面したマブリとコンディヤックの思想的異同を兄弟のエピソードを交えつつ鮮やかに示し、安藤裕介氏がフィジオクラットの重農主義的偏向について主権論の視点から明らかにした。そして最後に Philippe Steiner氏が « économie » « politique » « administration » 等の語彙の関連性を追いながらケネーの政治経済学がもつ行政管理側面の重要性を論じた。いずれのセッションでも質疑応答が活発になされ、18世紀フランス政治経済学の広がりを見るうえで非常に有意義な意見交換がおこなわれた。

2日目の9月9日（日）の会議では、午前に2名の報告が、また午後に1名の報告と記念講演が行われた。午前の部では、まず、これまで省みられてこなかったルソーのエピキュリアン的側面について、Christophe Salvat氏が報告、次いで、カンティロンの経済学の理論的特徴について黒木龍三氏が論じ、ケネーら重農主義との相違を明らかにした。午後の部では、最後の報告として、喜多見洋氏が、当時のいわゆるジュネーヴ学派について、その興味深い人脈を紹介するなどして論じた。18世紀フランスの社会思想的局面と大陸における科学的な経済学の誕生について明らかにされるとともに、革命後の社会科学の伝播について、ジュネーヴ学派の果たした影響を知ることが出来、大変実り多い2日目であった。

なお、今回の国際シンポジウムの最後に、Antoin Murphy氏による記念講演が行われた。ペティから始まり、ジョン・ロー、カンティロン、ヒューム、チュルゴなどの紹介を経て、18世紀の偉大な貨幣経済の研究者で実践家でもあったヘンリー・ソントンで結ぶ、という、貨幣経済学の世界的大家であるマーフィー氏にしか出来ない、大いに感銘を受けた講演内容であった。

4. 会議の構成

(1) 学内参加者

氏名	所属・職名	会議における活動	内 訳
黒木龍三 安藤裕介	経済学部・教授 法学部・助教	司会者、報告者、討論者 司会者、報告者、討論者	経済学部 1名
			法学部 1名
			その他 ( )
			計 2名
変更内容 (氏名、不参加/追加の別)			

(2) 学外参加者 (国内、国外)

氏名	国名・所属・職名	会議における活動	内 訳
川出良枝 喜多見洋	日本・東京大学・教授 日本・大阪産業大学・ 教授	司会者、報告者 司会者、報告者	国名 人数
愛甲雄一	日本・成蹊大学アジア太 平洋研究センター研究員	討論者	日本 4名
古城毅	日本・立教大学ほか非常 勤講師	討論者	
Antoin Murphy	アイルランド・ダブリン 大学・名誉教授	報告者、討論者	アイルランド 1名
Philippe Steiner	フランス・パリ第4大学・ 教授	報告者、討論者	フランス 3名
Arnaud Orain	フランス・パリ第8大学・ 教授	報告者、討論者	
Christophe Salvat	フランス・CNRS 研究員	報告者、討論者	
			計 3カ国 8名
変更内容 (氏名、不参加/追加の別)			
【追加】 愛甲雄一、古城毅			